# 軍人が祀られている神社

平八郎・広瀬武夫である。これらの人は、全国的に有名に 永山武四郎・橘周太・山下奉文、海軍では西郷従道・東郷 郎をはじめ、陸軍では西郷隆盛・児玉源太郎・乃木希典・ 神社について紹介する。 神社を建て祭神として祀られたのであった。以下これらの なるとともに郷土においても人気と信望を得ていたため、 かなりいたが、祭神として神社に祀られたのは、大村益次 明治以降の日本陸海軍で、いわゆる軍神と云われた人が

国にある護国神社は、ここでは取り上げないことにする。 なお、戦死した多くの軍人が祀られている靖国神社や全

### 大村神社 (山口市鋳銭司)

大村益次郎は、近代日本軍の創設功労者として歴史にそ

原 剛

たが遂に十一月五日死去した。遺体は郷土の周防国鋳銭司 て凶徒に襲われ重傷を負い、蘭医ボードインの治療を受け

(現山口市鋳銭司) に葬られた。

の名を留めている。大村は明治二年六月四日、京都にお

近くに小さな神社を建立するに決し、多くの人々の奉仕作 地元の人々は、大村の遺徳を後世に伝えるため、 墓所

められたが、 数年後再度新社殿建設の気運が高まり、昭和十六年、墓所 漸く戦後の二十一年に完成した。御神体は、大村が有栖川 が開始された。ほとんど地元の人々の奉仕作業で工事は准 から少し離れた見晴らしのよい山腹に建立するに決し工事 業により完成、明治五年三月鎮座祭を行った。 昭和九年、新社殿建設の計画が進められたが実現せず、 戦時中の厳しい条件のなか、工事は難航し、

宮熾仁親王から賜った鉄扇である。

どが展示されてい 神社の傍に山口 | 市立 |鋳銭司郷土館があり、 大村の遺品な

#### 南州神社 (西郷隆盛を祀る神社

鹿児島県沖永良部島和泊町の四個 州神社 鹿児島市 ・山形県酒田 斯に しある。 市 ·宮崎県都城 市

#### 南州神社 (鹿児島市上竜尾町二)

れた。 社殿が完成し、 建てる気運が、 和二年九月に桐野利秋以下を祀る摂社が同じ境内に建てら の前身である参拝所が建てられた。その後、大正二年十月 明治十年の西南戦争で戦没した西郷隆盛以下を祀る祠を 同十一年六月南州神社の社号が許され、 鹿児島で高まり、 明治十三年一月に、 昭

社に隣接して南州墓地と西郷南州顕彰館がある。 れた。祭神の命日に当たる九月二十四日が例祭である。 昭和二十年七月空襲で炎上し、 同三十二年九月に再建さ

#### 2 南州神社 (山形県酒田市大字宮野浦

菅実秀は、 郷 を 《の計らいで寛大な処分となった。これに感激した家老の 戊辰戦争で官軍と激しく戦った庄内藩(鶴岡藩) 南州翁遺訓」としてまとめ世に広めた。二人の徳を称 後に鹿児島を訪ね西郷 の教えを請 1, その教え は、 西

> 勢神宮の御古材の払い下げを受けて建造され 霊を祀る南州神社を酒田市宮野浦に建立した。神殿は、 えるため、 地元庄内の人々は、 昭和五十一年六月、二人の

> > 344

十三年九月に建てられた。 なお、境内には二人の坐像「徳の交わり」銅像が、 平成

#### 3 南州神社 (宮崎県都城市庄内町)

児島の南州神社の分霊を請願し庄内南州神社を建立した。 霊を祀る神社を建立する気運が高まり、 庄内町では、 昭和五十三年十月、 昭和二年、 西郷南州翁と西南戦争での地元出身戦没者 西南戦争五十周年にあたり、 出火により社殿を焼失したが、 昭和四年五月、 当時の北諸 地元 県 郡

# 南州神社(鹿児島県沖永良部島和泊町手々知名

民の熱意により昭和五十五年十二月に再建された。

4

が建立された。 西郷が生活した座敷牢の所在地に、 が、この間島民に与えた影響は大きく、 流された。沖永良部島で約一年半、流罪人の生活を送った を煽動しているという罪で、徳之島、 西郷隆盛は、文久二年六月、島津久光の命に従わず浪 西郷を祀った南州神社 ついで沖永良部島に 明治三十四年一月、

郷 銅像が、 昭和五十三年八月、 境内の拝殿横に建てられた。 上野の西郷銅像を模した小さ目の西

# 帥を祀る神社)に、西郷神社(栃木県大田原市加治屋の西郷従道元

場とした。 場とした。 場とした。 明治三十四年、両家で等分して西郷農場・大山農いった。明治三十四年、両家で等分して西郷農場・大山農いった。 明治三十四年、当時参議兼農商務卿であった西郷従道は、明治十四年、当時参議兼農商務卿であった西郷従道は、

長靴下一足・狩猟用上衣一着である。 珍しい社殿である。御神体は、白鞘の短刀一振り・防寒用じた。全て石造りでしかも柱・壁・屋根に彫刻が施された三十六年七月、その霊を祀る西郷神社を農場の一角に建立三十二年

#### 四、乃木神社

が、北海道室蘭市日本製銅室蘭製作所内・埼玉県飯能市坂神社が建立された。他に個人および有志が建てた乃木神社県下関市・香川県善通寺市の六個所に乃木将軍を祀る乃木県下関市・香川県善通寺市の六個所に乃木将軍を祀る乃木県下関市・香川県善通寺市の六個所に乃木将軍を祀る乃木県下関市・香川県善通寺市の六個所に乃木将軍を祀る乃木神社が建立された。他に個人および有志が建てた乃木希典は大正元年九月十三日、明治天皇の大葬の日、乃木希典は大正元年九月十三日、明治天皇の大葬の日、乃木希典は大正元年九月十三日、明治天皇の大葬の日、乃木希典は

山・愛知県豊明市栄町・別府市南立石乙原・大分県杵築市石秩父御嶽神社内・新潟県加茂市元狭口・富山市八尾町城ヶ

### 1 乃木神社(東京都港区赤坂)

杵築八坂神社内などにある

を建て、昭和三十七年に本殿以下が竣工した。
五月の空襲により本殿以下焼失し、昭和二十三年に仮本殿祭が行われた。大正十三年八月に府社となり、昭和二十年正十二年十一月、乃木神社が旧乃木邸の隣に建立され鎮座正十二年十一月、乃木神社が旧乃木邸の隣に建立され鎮座正十二年十一月、乃木神軍が殉死するや、時の東京市長阪谷芳郎が中心に

乃木邸が保存され、命日などに公開されている。 境内には宝物殿があり、遺品が展示されている。隣に旧を亙て 昭利三十七年に才展じてカガコした

### 2 乃木神社 (函館市乃木町)

大正の初期、

乃木将軍の追悼祭が行われてていたが、この函館乃木会が

函館の有志により函館乃木会が結成され、

後の昭和三十九年九月、東京の乃木神社に寄進され東京乃がら乃木将軍の崇敬家池田宇一郎氏に譲渡され、池田氏没敬する函館の実業家小熊幸一郎氏が提供したものであった。 土地は、乃木将軍を崇市乃木町に乃木神社が建立された。土地は、乃木将軍を崇中心になって函館の有志に呼びかけ、大正五年九月、函館中心になって函館の有志に呼びかけ、大正五年九月、函館

木神社函館分社となった。

## 3 乃木神社(栃木県那須塩原市石林

現職時も、余暇を得てこの別邸を訪ねていた。間、この那須の別邸で農耕をしながら自適の生活を送った。受け、休職中の二十五年・三十一年・三十四~三十七年の一分大希典は、明治二十四年那須野原の石林に農地を譲り

二年十月過激派の放火で焼失し、五年三月復元された。別邸は、昭和四十一年に栃木県史跡に指定されたが、平成を建立した。乃木自ら設計して明治二十五年に建てられた夫妻を祀る神社の創建を決議し、大正五年四月、乃木神社

### 4 乃木神社(京都府伏見区桃山町)

全国の乃木将軍崇敬者の協力を得て、大正五年九月、御陵桃山御陵の近くに乃木将軍を祀る神社を建てようと決意し、けた、鉄道事業家村野山人翁は、明治天皇が葬られているし、大君のみあとしたいて我はゆくなり」の辞世の句を残しし大君のみあとしたいて我はゆくなり」の辞世の句を残しし大君のみあとしたいて我はゆくなり」の辞世の句を残し、乃木将軍は「うつし世を神さりま明治天皇御大葬の日、乃木将軍は「うつし世を神さりま

府の乃木旧邸を再現したものなどがある。が置かれていた柳樹房の農家を移設した記念館、下関市長境内には、日露戦争の旅順攻略戦の時、第三軍の司令部

0

南麓に乃木神社を建立した。

## 5 乃木神社(山口県下関市長府宮の内町

四月に鎮座際が行われた。社殿は、将軍が総督を勤めた台正八年十二月に社殿が完成し、翌九年二月に県社に列し、立の気運が高まり、地元および広く有志の協力を得て、大力木将軍が少年時代を過ごした長府の地に、乃木神社建

境内には、乃木家旧邸・宝物館・乃木将軍夫妻の銅像が湾の阿里山の檜で建造された。

### 乃木神社(香川県善通寺市文京町)

ある。

6

め せ 五月に乃木神社を建立した。 た歩兵第四十三連隊跡地の払い下げを受けて、 よって乃木将軍遺蹟会を設立し、 乃木将軍殉死の後、 典中将が初代の師団長として、三十四年まで就任していた。 明治三十一年、善通寺に第十一師団が創設され、 讃岐の宮」と称されている。 昭和三年に四国乃木会とし、 善通寺町では、大正三年に町の有志に 戦後、 軍縮により徳島に転営し 神社建立の計画準備を進 隣接する護国神社と併 昭和十二年 乃木希

#### 五、児玉神社

島と山口県徳山(現在周南市)の二個所にある。 陸軍大将児玉源太郎を祀る児玉神社は、神奈川県の江

### 児玉神社(神奈川県藤沢市江ノ島

児玉大将は、満州軍総参謀長として日露戦争の勝利に貢

346

の「感じばく世やあらんと質みて、伏さだ折れなどの反道にない。な時に斃れた。全国各地の児玉大将の死を悼んだ山県有朋年、児玉が愛した湘南の江ノ島に、児玉神社を建立した。な時に斃れた。全国各地の児玉大将崇敬者たちは、大正十献し、戦後は参謀総長として日本の国防を再検討する重大

という歌碑が建てられている。の「越えば又里やあらんと頼みてし杖さえ折れぬ老の坂道

### 2 児玉神社(山口県周南市児玉町)

徳山出身の児玉大将を崇敬する地元の人々は、大正十一徳山出身の児玉大将を崇敬する地元の人々は、大正十一年十二月、旧児玉邸跡に児玉神社を建立した。昭和八年に県社に列せられたが、二十年の空襲で焼失し、戦後再建さ 県社に列せられたが、二十年の空襲で焼失し、戦後再建さ 県社に列せられたが、二十年の空襲で焼失し、戦後再建さ には出身の児玉大将を崇敬する地元の人々は、大正十一

## 六、永山神社(北海道旭川市永山四条)

を祀る神社を建てたが、大正九年九月、開拓の祖である永拓が始まった。明治三十一年、村民は天照大神と大国主神けるがよい」との仰せで、この地区は永山村と命名された。がないと言うと、天皇は「お前の姓を取って永山村と名付郎屯田兵司令官が天皇に説明した際、この地方に未だ村名郎屯田兵司令官が天皇に説明した際、この地方に未だ村名郎山田兵道と呼びた。

山武四郎将軍を合祀した。

大正十一年八月郷社に、

昭和二十年四月県社に昇格した。

境内には、永山武四郎将軍の銅像が建てられている。を始め、翌五年六月竣工し遷座祭を行った。

長年の風雪で社殿が老朽化したので、平成四年に改築工事

## 七、橘神社(長崎県雲仙市千々石町)

十五年に漸く建立された。

十五年に漸く建立された。

林岡太少佐は、日露戦争に出征し、明治三十七年八月、橋周太少佐は、日露戦争に出征し、明治三十七年八月、

村西望作の橘中佐の銅像が建てられている。あり、遺品が展示されている。また、地元出身の彫刻家北あり、遺品が展示されている。また、地元出身の彫刻家北境内には、橘中佐の生家の一部を移転修復した遺徳館が

# 将を祀る神社) 「日杉神社(高知県長岡郡大豊町杉」山下奉文大

絞首刑になった。山下将軍を尊敬する戦友会と地元の人々敗戦となり、戦後マニラの軍事法廷で死刑の判決を受け、第十四方面軍司令官としてフイリッピンの防衛に当ったが山下将軍は、シンガポール攻略で一躍有名になり、後に

を祀る小さな神社が建てられた。によって、昭和六十年十一月、地元の八坂神社境内に将軍

#### 九、東郷神社

と埼玉県飯能市および福岡県津屋崎にある。後に元帥に列せられた。東郷元帥を祀る東郷神社は、東京ルソンに匹敵する偉大な提督として、世界的に有名になり、を殲滅した連合艦隊司令長官東郷平八郎は、イギリスのネを殲滅した連合艦隊司令長官東郷平八郎は、イギリスのネを殲滅した連合艦隊司令長官東郷平八郎は、イギリスの系を殲滅した連合艦隊司令長官東郷平八郎は、東京

### 1 東郷神社(東京都渋谷区神宮前)

東郷元帥が昭和九年五月に没するや、翌十年十二月に財東郷元帥が昭和九年五月に東郷神社が創建され、鎮座祭が行おり、昭和十五年五月に東郷神社が創建され、鎮座祭が行おり、昭和十五年五月に東郷神社が創建され、鎮座祭が行めれ、府社に列せられた。昭和二十年五月の空襲により社が、昭和十五年五月に没するや、翌十年十二月に財東郷元帥が昭和九年五月に没するや、翌十年十二月に財

蔵などがある。 ・日本庭園・旧東郷邸から移築された

# 2 東郷神社(埼玉県飯能市坂石〈旧吾野村坂石〉)

亡くなるや、翌十年四月に東郷神社を銅像の近くに建立し東郷元帥の銅像をその境内に建て、東郷元帥が昭和九年に吾野に御嶽神社を創立した鴨下清八翁は、大正十四年に

像と乃木神社がある。
雷・砲弾・野砲などがある。また、近くには乃木大将の銅た。境内に軍艦三笠の被弾した甲板の一部・ロシア軍の機

## 3 東郷神社(福岡県福津市渡〈旧津屋崎町渡〉)

た。記念館は宝物館となり元帥縁の品が展示されている。昭和四十四年、念願の東郷元帥を祀る東郷神社が建立され和九年、園内に日本海海戦紀念碑と東郷記念館を建てた。現氏は、玄界灘を一望できる大峰山に東郷公園を造り、昭東郷元帥を崇敬する津屋崎町の町会議員であった安部正東郷元帥を崇敬する津屋崎町の町会議員であった安部正

## 十、広瀬神社(大分県竹田市竹田)

年に、 祀る広瀬神社を中佐の生誕地竹田に建立した。 の多くの人々の協賛を得て、昭和十年五月に、 軍神と仰がれるようになった。 および中佐の遺品などが展示されている。 て戦死した。死後中佐に進級し、 境内には、 広瀬武夫少佐は、 竹田市および近郊出身の戦没者が合祀された。 広瀬武夫記念館があり、 日露戦争における旅順 郷里の竹田の人々は、 陸軍の橘中佐とともに 軍艦朝日のカッター 口閉塞作戦にお 昭和二十三 広瀬中佐を 全国

#### 〈参考文献

三浦譲編『全国神社名鑑』上下巻(全国神社名鑑刊行会史学セン

348

大村益次郎先生伝記刊行会編『大村益次郎』(肇書房、一九四四年) 藤本弘三郎編『日本社寺大観』 神社編 (名著刊行会、一九七〇年)

大村神社「大村神社の由来」

南州神社 「南州神社について」

莊内南州会編刊 『南州翁遺訓』(二〇〇二年)

和泊町誌編集委員会編『和泊町誌』民俗篇(和泊町教育委員会、 庄内の昔を語る会編刊 一九八四年 『庄内』第五号 (一九九三年十一月)

本部廣哲『偉大な教育者西郷隆盛 九九六年) 沖永良部島の南州塾』(海風社)

西郷従宏 『元帥西郷従道』 (芙蓉書房、一九八一年) 大田原市史編纂委員会編『大田原市史』後編(大田原市、一 九八

乃木神社編刊『乃木神社由緒記』(二〇〇四年)

高山貴「東京乃木神社函館分社誕生」(『郷友』第十二巻第一号、 一九六六年一月)

乃木神社略記」那須乃木神社

京都乃木神社要記」京都乃木神社

乃木神社」長府乃木神社

善通寺市教育委員会市史編纂室編『善通寺市史』第三巻(善通寺市 九九四年

藤岡洋保『近代の神社建築行政に関する研究』科学研究費基盤 究成果報告書

大脇の歴史編集委員会編 『大脇の歴史』(大脇の歴史発刊実行委

員会、二〇〇三年

見玉神社修復奉賛会」児玉神社修復奉賛会

"児玉神社」徳山児玉神社

永山神社社殿改築奉賛会編刊『創祀百周年永山神社御造営』(一 加登川幸太郎『名将児玉源太郎』(日本工業新聞社、 一九八二年

九九三年

巨杉会編刊『巨杉会会報』第六号(一九八六年) 永山神社社務所「永山神社のしおり」

東郷神社編『東郷神社誌』(山王印刷、 一九八四年

津屋崎町史編纂委員会編『津屋崎町史』通史編(津屋崎町、

九

九九年)

秩父御嶽神社『開眼百周年記念誌』(一九九八年

広瀬神社「広瀬神社由緒記

,防衛研究所図書館調査員,